



紀々(きき)

1998年に早稲田大学第一文学部哲学科東洋哲学専修を卒業後、電子オルガン奏者に。2003年、生涯学習開発財団認定コーチ資格取得後、ライフコーチとしての仕事を始める。2009年、日本コーチ協会沖縄チャプター初代表。オリックス・クレジット㈱をはじめ企業の元気度アップに取り組んでいる。

# 元気と転機に、エールを込めて

**起きたことをどうとらえ、どう動くかで変わる運命**

このたびの思いがけない東北関東大震災：皆さんのところでは、被害・影響はいかがでしょうか？被災地の方々に對しましては、心よりお見舞い申し上げます。

こうした未曾有の状況の中で、今、そして、これから必要になってくるのは「元氣と転機」ではないかと私は感じています。そこで今回は、私が日ごろ「元氣と転機」を応援する現場でお伝えしていることを、皆さんへお届けしたいと思います。

そもそも私が本名ではなく、「紀々」というコーチ名で活動するようになった当初は、「ふざけているのか」と言われることもありましたが、あるところから、講演を聞いてくださった企業経営者の方々に同じ言葉をいただくようになったのです。それは：「先生のお名前は、わが社と同じですね。わが社もキキ的狀況です」というもの。

危機から転機へ！こうして、「危機的な現状から、転機を起こしたい」という企業から依頼をいただくようになり、現場の皆さんと一緒に転機を目指す日々がスタートしました。

では、転機を起こすには、どうしたらいいのでしょうか？カギは「転」にあると思います。紙に「X(バツ)」を書いてみてください。それを右にゆつくり回転させると：別のマークになりませんか？そう、「+ (プラス)」です。これはダメだなど「X印」をつけてしまっている出来事について、発想を転じ、「+」に

生かしていくこと。それが転機の始まりではないか、と私は思っています。

何が起こるかは選べなくても、起きたことを「どうとらえるか」、そして「どう動くか」は自分自身で選ぶことができます。ちよつと大げさに言うと、その選択が運命を左右するのではないかと思います。

例えば、「雨が降った」時に、天気が悪くて憂うつ、日頃の行いが悪いからだ、ツイてない、といったものが「X」系のとらえ方。「+」系だと、マイナスイオンがいつぱい！恵みの雨、といった感じ。

そして、その気持ち「どう動くか」にも反映され、「X」系の人は、ため息をつく、不満を言う、雨を気にしながら歩く、などとなる。一方、「+」系の人は、お気に入りの傘をさす、雨でもOKの素材のカバンを持つ、室内でできることをするなどとなっていくわけです。

一つ一つは小さな違いのようですが、日々の中には、そんな小さなことこそ数多くあるもの。この「X」と「+」の小さな枝分かれの数々を積み重ねる中で「危機」となるか、「嬉々」となるか、先の状況も変わってくるのではないのでしょうか？

「X」を別の形である「O」にするのは難しくても、「+」にするのはちよつとした工夫でできるはず。いくつもの組織や、現場で頑張る多くの方々と向き合う中で、そう考えるようになりました。

「前向きな人」というのは、性格が前向きなのではなく、発想が前向きなのだと思います。だから、言葉も

行動も前向きになり、周囲の人たちも前向きな空気になっていく。それがひいては環境そのものを前向きに動かしていく契機ともなるのです。

## 阪神淡路大震災の報道で感動した「+」発想の光景

私は一時期、ブライダル業界にかかわっていたことがあります。結婚式には、とにかく「すべてを+にとらせる」意識が欠かせません。快晴の日には「天候にも恵まれ」とあいさつしますが、たとえ、どしゃ降りであつても「あいにくの…」なんて言うことはありません。「恵みの雨」「幸せが降る」などなど、どこまでも「+」の表現が進めます。

それはある意味、演出の一つですが、人生も舞台だとすれば、やっぱ演出も大事ではないでしょうか？もう一つ、私が「+」発想のお手本にしていることがあります。

それは、阪神淡路大震災の後に避難所を取材した番組で見た食事の場面。「今日も、皆さん元氣でおめでとうございます！」リーダーらしき人のあいさつの言葉に、思わず涙が出ました。さすがに、こんなに大変な状況では「おめでたい」ことなど見出せないのではと思っていたところで、こんな「おめでどう」があつたのでした。運命を変えるのは、もしかしたら「天」よりも「転」の力なのかもしれない。この仕事を通じて、いくつもの転機に立ち会わせてもらおう中、そう感じています。

あした：転機に、なあれ！

あしたは「+」か？  
「+」は「転」で「+」は「何ですか？」

